

〈音楽〉

記譜力・読譜力をはぐくむ指導の工夫 — フレーズカードを活用した音楽づくりを通して（第4学年） —

南城市立大里南小学校 眞 嗣 博

I テーマ設定の理由

現行の小学校学習指導要領音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」である。新学習指導要領（平成20年3月）においてもこの目標は継承され、音楽科の基本理念の重要性が改めて示された。一方、内容構成は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な〔共通事項〕が新たに設置された。また、今改訂において特に重要なことは、創作と鑑賞の充実が求められたことである。これは、音楽科の課題として「歌唱の活動に偏る傾向があり、表現の他の分野と鑑賞の学習が十分ではない状況が見られるため、創作と鑑賞の充実を図ること」が、中教審答申（平成20年1月）において示されたことを受けてのことである。

このような音楽科の課題を踏まえて、これまでの私の授業を振り返ると、音楽づくりにおいて児童に記譜力・読譜力を定着させる指導が不十分であったと考える。中学年のリコーダーによる音楽づくりにおいて、記譜力が不十分なため自分のつくった音楽を記譜できなかつたり、教師が記譜を行った場合でも読譜力が不足しているため、次時に改めて演奏することが難しいなどの実態がみられた。これは私の授業における記譜力・読譜力指導が、不十分であったことが主な原因ではないかと考えている。

そこで、記譜力・読譜力を育てるために、フレーズカードを活用した音楽づくりに取り組み、授業の工夫改善を行いたいと考えた。フレーズカードは、絵譜、音符、休符を組み合わせ作成し、リズムや音階旋律のまとまりなど段階的・継続的な音楽づくりの活動を行っていきたい。活動の中に、「まねっこ遊び」や「リズム当てゲーム」など音遊びの要素を取り入れ、記譜力・読譜力をはぐくんでいきたいと考えている。記譜力・読譜力がはぐくまれることで、自分でつくった音楽を味わったり、イメージに合うような思いや意図を持った音楽づくりにつながることを期待できる。このような、段階的なフレーズカードを活用した音楽づくりを通して、音楽活動の基礎的な能力である記譜力・読譜力がはぐくまれていくであろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

フレーズカードを活用した音楽づくりに取り組むことで、音楽活動の基礎的な能力である記譜力・読譜力がはぐくまれるであろう。

II 研究内容

1 記譜力・読譜力について

(1) 記譜力・読譜力とは

楽譜は音楽を可視的に表記したものである。楽曲を一定の記譜法に従って楽譜として表記することにより、作曲者の音楽的意図を詳細に伝えることのできる資料となる。演奏者は楽譜を理解し読むことによって作曲者の意図をふたたびよみがえらせることが可能になる。このことから、「作曲した音楽や、既存の曲を楽譜として表記する能力」を記譜力と捉えることができる。

読譜について、標準音楽辞典(1991)では、「楽譜を見て、それをただ音程もリズムもつけずに素読することではなしに、場合によってはハーモニーもつけて歌ったり演奏したりすること。いいかえれば、楽譜に書いてあるものを音楽として表現すること。」と示している。このことから、読譜力とは、楽譜に書いてあるものを、理解し、読むことによって、音楽として表現できる力であると捉えることができる。

これら記譜力・読譜力をはぐくむことにより、自分のつくった音楽や既存の楽曲を表記したり、再現して演奏できるようになり、音楽科の表現（歌唱・器楽・音楽づくり）活動がより充実することにつながると思われる。

(2) 記譜力・読譜力の指導法

小学校学習指導要領(2008)では、音楽づくりの指導上の配慮事項として、「つくった音楽を互いに分かち合い、思いや意図を伝え合う上で、つくった音楽を記録することは大切である。そのため児童の実態や必要に応じて記譜の仕方を指導することが求められる。」と示している。楽譜は、作曲者の意図を伝える媒体である。音楽づくりの活動において、記譜したり、読譜したりすることは自分のイメージに合うような音楽づくりの創意工夫や、友達の音楽を味わうことにつながる重要な学習活動である。

しかし、記譜力・読譜力の向上を目指すあまり、音符や休符、拍子などの教え込みや音楽の記号・用語などの知的理解に偏ってしまえば、のびのびと楽しみながら自由な発想で音楽づくりをする活動は期待できないと考える。読譜指導について標準音楽辞典(1991)では、「読譜の指導は系統的発展的に行わないと、効果は上げ得ない。特に低学年時代の感覚的訓練がもっとも大切で、この基礎なしにすぐに五線の楽譜の読譜に入っても、音楽の再表現は不可能である。」と示している。このような点をふまえ、記譜力・読譜力の指導に当たっては、つくった音楽を視覚的にとらえたり音楽を再現する手掛かりとなるよう絵譜や身体表現などを効果的に用いて児童の実態に応じた指導が大切であると考えられる。

2 音楽づくりについて

(1) 音楽づくりとは

音楽づくりとは、児童が自ら音楽をつくって表現することをいう。小学校学習指導要領(2008)では、「音楽づくりは、児童が自らの感性や創造性を働かせながら自分にとって価値のある音楽をつくる活動である。」としている。音楽づくりの活動を通して、児童が身の回りのいろいろな音のおもしろさや特徴に気づいたり、その響きや組み合わせを楽しんだりしながら、音を音楽へと構成していく能力を高めることが求められている。

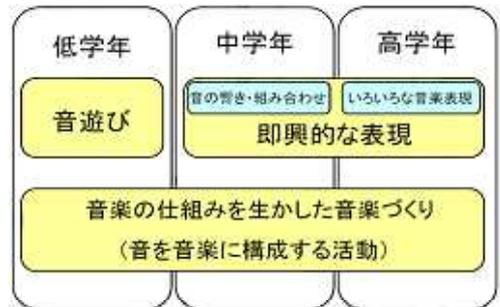


図1 音楽づくりの活動

山口亮介(2008)は、「音楽づくりの活動で進むべき道は二つある。『音遊び』『即興的な表現』と『音楽の仕組みを生かした音楽づくり』の道である。」と述べている。「音遊び」や「即興的な表現」とは、児童が直感的にひらめいて鳴らした音や偶然によってできる音など様々な音や音楽のよさや面白さを感じ取る活動である。また、「音楽の仕組みを生かした音楽づくり」は、思いや意図をもって、音楽の仕組みを生かしながら音楽をつくる活動である(図1)。このことから、音楽づくりの活動は、音楽の素材としての音に対する感性や、音を音楽へと構成していく能力を高めることが求められているといえる。

(2) 音を音楽に構成する活動内容

音楽づくりの指導において、児童がみつけた様々な音を音楽に構成する活動内容を、以下のよう

表1 音を音楽に構成する活動内容

学習深度	活動	具体的内容
↓	音遊び・音探し	・声や身近な楽器、自然の音など身の回りの様々な音のもつ面白さや特徴に気づいたり、イメージに合う音を探す。 ・身体の動きにあわせて声や音を出し、音遊びをする。
	リズム遊び	・リズム模倣、リズム問答、身体的リズム表現等を通した簡単なリズムづくり
	リズムフレーズづくり	・リズム遊びを発展させたリズムパターンづくり。 ・リズムパターンの組み合わせによるリズムフレーズづくり。
	音楽の仕組みの理解	・音楽の始まり方、終わり方の工夫、反復、問いと答え。 ・簡単な形式(2部形式、3部形式)による音楽づくり。
	短い旋律づくり	・言葉のもつリズム、抑揚、アクセントによる高低を生かし、歌詞の内容や言葉の語感からイメージを膨らませた短い旋律づくり。
	まとまった旋律づくり	・リズムパターンを決めたり、音階の中で使う音をいくつか限定したりするなど、音楽の構成要素から一つを焦点化した短い旋律づくり。 ・音域、旋律、音色、奏法など楽器の持ち味を生かし、短い旋律づくりを手がかりとしたまとまった旋律づくり。

音を音楽に構成するとは、反復、問いと答えなどの音楽の仕組みを手がかりとして、それぞれの音やフレーズを一つのまとまった音楽にすることである。「この音はきれいだ」「こんな音を出してみたい」「これらの音をこうしてつなげたらイメージ通りの音楽になるかな」など、児童が様々な発想をもってまとまりのある音楽をつくっていく活動である。指導に当たっては、児童が描いた音に対するイメージや、つくりたい音楽のイメージを大切に、音を音楽にする過程を楽しむような活動を目指していきたいと考える。

(3) 音楽づくりと〔共通事項〕の関連

小学校学習指導要領(2008)においては、表現及び鑑賞の活動の支えとなるものとして〔共通事項〕が新設された。石井ゆきこ(2008)は、「〔共通事項〕の新設によって、『音楽の学習内容』を支えとして歌唱、器楽、鑑賞と関連づけながら、よりいっそう、深まりのある創作活動を展開していくことにつながる。」とし、〔共通事項〕と各活動とを関連させることで、より充実した創作活動が実践できる、と述べている(図2)。



図2 音楽づくりと共通事項の関連

〔共通事項〕には、音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組み、音符、休符、記号、音楽に関わる用語が示されている。それらは、音楽づくりの活動において、音や音楽の特徴に気づいたり、音を音楽に構成する過程で基盤となる学習内容である。音楽づくり活動と〔共通事項〕を関連させた指導計画を作成し、実践していくことが重要であると考え。音楽づくりの活動においては、「まねっこゲーム」や「リズム当てゲーム」など、音楽遊びと〔共通事項〕を関連させた活動を行いながら記譜力・読譜力をはぐくみたいと考えている。

3 フレーズカードの指導法

平凡社音楽大事典(1985)によると、フレーズとは「旋律や走句の自然な区切りのことである。たいてい4小節、2小節あるいは8小節など偶数小節が原則」であると示されている。本研究におけるフレーズカードは絵譜・音符・休符・記号・用語などを組み合わせ、簡単な音楽のまとまりを記載した2小節または、4小節程度のオリジナルのカードとする。

フレーズカードのプログラムは、リズム、音高、旋律、音遊びの内容で構成し、常に旋律を伴った音楽を取り入れて指導を行っていきたい。山本弘(2006)は、「リズム、音高など音楽を輪切りにして指導するのではなく、常に生きた音楽で指導することが大切である」と述べ、旋律を伴った音楽で指導することの重要性を示している。

(1) リズム

① 基礎的な音符・休符の理解

ここでは、11パターンのリズムフレーズカード(図3)を作成し、旋律からリズムを認識できるような活動を行う。活動を通して、音符や休符の理解を深め、楽譜に書いてあるものを音楽として表現することにつなげていきたい。

4/4拍子・2小節		4/4拍子・4小節				共通事項
① 4拍目に休符を含む	② 休符を含まない	③ ②+①組み合わせ				
① ○○○○V J J J ♯	① ○○○○ J J J J	① ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	② ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	③ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	④ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拍の流れ ・ 反復 ・ J J J ♯
② ○○○○V J J J ♯	② ○○○○ J J J J	② ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	③ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	④ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑤ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
③ ○○○○V J J J ♯	③ ○○○○ J J J J	③ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	④ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑤ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑥ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
④ ○○○○V J J J ♯	④ ○○○○ J J J J	④ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑤ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑥ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑦ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
⑤ ○○○○V J J J ♯	⑤ ○○○○ J J J J	⑤ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑥ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑦ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑧ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
⑥ ○○○○V J J J ♯	⑥ ○○○○ J J J J	⑥ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑦ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑧ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑨ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
⑦ ○○○○V J J J ♯	⑦ ○○○○ J J J J	⑦ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑧ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑨ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑩ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
⑧ ○○○○V J J J ♯	⑧ ○○○○ J J J J	⑧ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑨ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑩ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑪ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	
⑨ ○○○○V J J J ♯	⑨ ○○○○ J J J J	⑨ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑩ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑪ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯		
⑩ ○○○○V J J J ♯	⑩ ○○○○ J J J J	⑩ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯	⑪ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯			
⑪ ○○○○V J J J ♯	⑪ ○○○○ J J J J	⑪ ○○○○ ○○○○ J J J J J J J ♯				

図3 11パターンのリズムフレーズカード

② 拍子の理解

拍子を理解させるため、2/4拍子、3/4拍子、4/4拍子のフレーズカードを作成する（図4）。教師が演奏する音楽にのって身体表現をしながら、何拍子かを当てる「拍子当てゲーム」を行い、拍子感を身につけさせたい。

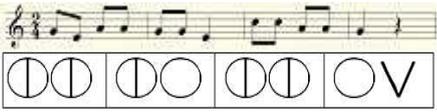
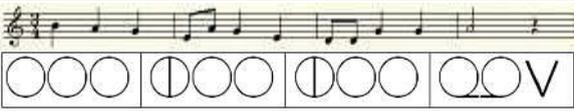
拍子	小節	フレーズカードの具体例	共通事項
2/4拍子	4小節		<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れ ・ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪
3/4拍子	4小節		
4/4拍子	4小節		

図4 拍子の理解

(2) 音高

音高を理解させるために、左手の5本の指を5線譜に見立てて、右手の人差し指で階名の位置を示し、指遊び（図5）を行う。下第1線のドを示す時は、右手の人差し指を図5のようにして加えクラスの全員が暗唱できる「きらきら星」などの曲で楽しく指遊びを行い、5線の位置を理解させたい。

曲名	フレーズカードの具体例	共通事項
<ul style="list-style-type: none"> ・「きらきら星」 ・「陽気な船長」 ・「オーラリー」 		<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れ ・ハ長調の音階 ・ ♪

図5 指遊び

(3) 旋律

ここでは、11パターンの旋律を表記したフレーズカード（図6）を作成する。フレーズカードに表記された音楽には、既習曲も含まれていることに気づかせることで、楽譜に書いてあるリズム・音高を理解し、音楽として表現することができるような力につなげていきたい。

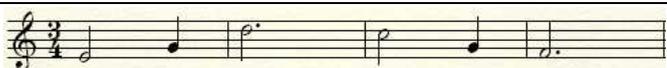
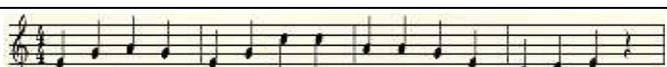
拍子	小節	音符・休符	フレーズカードの具体例	共通事項
2/4拍子	4小節	4分音符, 付点8分音符 16分音符, 4分休符		<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れ ・ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪
3/4拍子	4小節	2分音符, 付点2分音符 4分音符		
4/4拍子	4小節	4分音符, 4分休符		

図6 11パターンの旋律フレーズカードの例

(4) 音遊び

フレーズカードを活用して行う音遊びは以下の通りである（表2）。

表2 音遊び

1	まねっこ遊び	旋律からリズムを認識する能力を身につけさせるために、教師が範奏し、児童に模奏させる。その場合、11パターンのリズムフレーズカード（図3）による旋律とする。
2	リズム当てゲーム	旋律からリズムを認識する能力を身につけさせるために、教師がリコーダーで旋律を演奏し、相当するフレーズカード（図3）を当てるゲームを行う。グループ対抗やペア対抗などで行い、楽しみながらリズムの理解を深めさせる。
3	リズム絵譜書き	教師の演奏する音楽を絵譜で記譜するゲームを行う。早く正確にリズムを理解し記譜できることをグループ対抗やペア対抗で競い合う。楽しみながら活動することで、記譜することになじませていく。

III 指導の実際

1 題材名 音楽でクラスのキャッチフレーズ「みんななかよし4の3」をつくろう

2 題材の目標

- (1) 簡単な旋律からリズムを聴きとり、記譜することができる。
- (2) 4小節の旋律をつくり、記譜し、リコーダーなどで演奏できる。
- (3) 友だちの旋律の良いところを認め、自分のつくった旋律を振り返ることができる。

3 題材の評価規準

1 関心・意欲・態度	2 音楽的な感受や表現の工夫	3 表現の技能	4 鑑賞の能力
①簡単なリズムや旋律をつくって表現することに興味・関心をもち、音楽づくりを楽しんでいる。 ②音遊びや身体表現活動に意欲的に取り組んでいる。	①様々なリズムや旋律及び拍子を生かした表現のしかたを工夫している。 ②自分の表現したいことについて思いやイメージを広げ、音楽づくりの工夫をしている。	①様々なリズムや旋律及び拍子の組み合わせを工夫して表現している。 ②つくった音や音楽を工夫して記譜している。 ③楽譜と音の関連に気づきハ長調の旋律を演奏できる。	①教師の範奏や互いの作品の特徴を感じ取り、聴くことができる。

4 指導と評価の計画（8時間）

次	時間	学 習 活 動	◇教師の支援 ☆共通事項	評価の観点				評価方法
				1	2	3	4	
第1次	1	○即興的に音楽づくりをする ・キャッチフレーズを「みんななかよし4の3」にきめる。 ・音楽づくりに取り組む。 ・次時からのめあてを知る。	◇教材提示を工夫する。 ☆拍のながれ ◇本題材の学習活動の流れを確認させ、学習に見通しを持たせる。	①	①	①		・ワークシート
	2	○拍の流れを理解する① ・4小節の視唱や指遊び階名唱をする。 ・リコーダー模奏、リズム当てゲームの後、記譜をする。	◇1小節11パターン（休符あり）のフレーズカードでリズムを理解させる。 ☆拍のながれ ☆反復 ◇記譜が行えるように支援する。			③	②	・行動観察 ・ワークシート
第2次	3	○拍の流れを理解する② ・リズム当てゲームや階名唱をし、記譜をする。	◇1小節11パターン（休符なし）のフレーズカードでリズムを理解させる。 ☆拍のながれ ☆反復	②		②		・ワークシート
	4	○2小節のフレーズを理解する ・リズム絵譜に音高を書き込み、5線譜に書く。	◇①、②のフレーズカードを組み合わせ2小節のフレーズを理解させる。 ☆拍のながれ ☆反復	②		②		・ワークシート
	5	○3種類の拍子を理解する ・4小節の視唱や指遊び階名唱をする。 ・拍子当てゲームをする。 ・リズム絵譜に音高を書き込み、5線譜に書く。	◇2/4、3/4、4/4拍子のフレーズカードを使って拍子を理解させる。 ☆音楽を特徴付けている要素（拍子）	②		②		・行動観察 ・ワークシート
第3次	6	○音楽でクラスのキャッチフレーズをつくる ・リズム絵譜に音高を書き込み、5線譜に書く。	◇これまで学習してきたリズムや拍子を使って4小節の音楽づくりをさせる。 ☆音楽を特徴付けている要素 ☆拍のながれ ☆反復	①	②	②		・ワークシート
	7	○発表会をする ・ワークシートに感想を書く。 ・自分の作品を振り返る。	◇友だちのつくった音楽の良さを聴き取らせる。 ☆音楽を特徴付けている要素（拍子） ☆拍のながれ ☆反復			①	①	・行動観察 ・発表 ・ワークシート
	8	○クラスのキャッチフレーズを決める。 ・決まった音楽を全員で模奏唱し記譜する。	◇キャッチフレーズにふさわしい音楽を決めさせる。 ☆拍のながれ ☆反復			②	①	・ワークシート

5 本時における評価基準

主な学習活動	評価基準とその方法	学習活動における具体的評価基準		
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 支援の具体的方法
①自分のつくった音楽を発表する。	○自分のつくった音楽を演奏できる。(3-①) 【行動観察・発表】	○自分のつくった音楽や友だちのつくった音楽を演奏できる。	○自分のつくった音楽を演奏できる。	○自分のつくった音楽をリズム唱させ演奏できるように助言する。
②友だちのつくった音楽の良いところを見つける。	○友だちの曲の良い点を感じ取ることができる。(4-①) 【ワークシート】	○友だちのつくった音楽の良さに気づき、自分の音楽づくりに生かすことができる。	○友だちのつくった音楽のよさに気づくことができる。	○鑑賞のポイントを示し友だちのつくった音楽のよさに気づかせる。

6 本時の展開 (7/8時間)

過程	学習活動	◇指導上の留意点 ☆共通事項	評価方法
導入	1 4小節の視唱をする。 2 「きらきら星」の音遊びや階名唱をする。 3 「オーラリー」を斉唱する。 4 学習のめあてを確認する。	◇必要に応じて、最初の音を示す。 ◇教師が伴奏し、のびのびと歌わせる。 ◇自分でつくった音楽を発表したり、友だちの音楽の良さを聴き取ることを知らせる。	
展開	5 自分でつくった曲を視奏唱して練習する。 6 発表会を行う。 7 友達のつくった曲を聴いて、良さをワークシートに書き、感想を発表する。	◇スムーズに発表できるように、机間指導しながら、練習の支援をする。 ◇発表がスムーズに行えるよう配慮する。 ◇互いの発表を聴いて、評価・感想を記入させる。	・行動観察 ・発表 (3-①) ・ワークシート (4-①)
まとめ	8 自分でつくった音楽を振り返る。 9 次時の学習内容を確認する。	◇今日の学習の感想をワークシートに書かせる。 ◇次時の予告、クラスのキャッチフレーズの決定に感想が生かされるよう促す。	

7 仮説の検証

研究仮説を「フレーズカードを活用した音楽づくりに取り組むことで、自分でつくった音楽を味わったり、よりイメージに合うような思いや意図を持った音楽づくりにつながり、音楽活動の基礎的な能力である記譜力・読譜力がはぐくまれるであろう。」とし研究を進めてきた。学習を通して児童がどのように変容していったか事前事後の記譜力・読譜力テスト、意識調査アンケート、児童の作品、自己・相互評価表をもとに検証した。

(1) 記譜力・読譜力の向上

① 記譜力・読譜力テストからの検証

第4学年3学級(115名)の児童に対して、検証授業前後に記譜力・読譜力テスト(図7)を実施した。その正答率の結果は表3の通りである。聴いた音楽のリズムを絵譜や楽譜に書く「リズム記譜」は、事前の47%から71%に伸びている。また、聴いた音楽のリズムと音高を同時に判別しながら、旋律を5線譜に記譜する「旋律記譜」は26%から54%に伸びている。次に、音楽を聴いて複数の楽譜から正しいリズム楽譜を選択する「リズム視聴判別」は81%から91%に伸びている。また、旋律楽譜を選択する「旋律視聴判

問題1 えんどうさね(リズム)〜をさいて、下のがくあ〜オビ、せんでおひましよう。(各4.5×5=20点/ 点)

ア リズム1
イ リズム2
ウ リズム3
エ リズム4
オ リズム5

問題2 下のア〜ウのがくあひ、3年生の時に習った曲です。今から読れる曲の記譜に○をつけて下さい。(10点/ 点)

ア
イ
ウ

問題3 えんどうさね(リズム)〜をさいて、リズム楽譜や音高を聞いておひましよう。(20点/ 点)

図7 記譜力・読譜力テスト(抜粋)

別」は、81%から97%に伸びている。このことから、ほぼ全員が音を聴いて正しいリズム楽譜や旋律楽譜を認識できる能力が向上したと推察できる。さらに、示された楽譜を見て、すぐにリコーダーで正しく演奏が行える「初見演奏」の割合は、事前が6%であったのに対し、事後は28%になった。これらの結果から、フレーズカードを活用した音楽づくりの活動を通して音符や休符、リズム、拍子、音高などの理解が深まり、記譜力・読譜力が高まったといえる。

また、検証授業後に行った自己評価においても、「記譜・読譜ができますか」の質問に対して、「よくできる・できる」が32%から62%に伸びており、記譜力・読譜力テストの結果と比例するものとなった(図8)。このことから、記譜力・読譜力が高まったことで、記譜力・読譜力に対する児童の自信につながったと捉えることができる。

② 意識調査アンケートからの検証

検証授業前後に行ったアンケート調査によると、「音楽の授業で好きな活動は何ですか」の質問に対して、「音楽づくり」と答えた児童の順位は下位ではあるものの、17%から27%に伸びている(図9)。

また、「音楽づくりで楽しいことは何ですか(複数回答可)」との質問に対し、「自分だけの曲が作れる」が42%から54%に、「楽譜が読めること」が16%から37%にそれぞれ伸びている(図10)。このことから、フレーズカードを活用した音楽づくりの活動を通して、記譜力・読譜力の高まりを児童が実感し、音楽づくりの楽しさに気づくことにつながったと推察できる。また、音楽づくりの活動に対する児童の感想には「音楽づくりでいろいろなイメージがふくらむようになった。」や「今まで楽譜が読めなかったが、少しずつ読めるようになった。」などと述べられ、課題を少しずつ乗り越えて、音楽づくりに前向きに取り組もうとする児童の姿が見えてきた。

表3 記譜力・読譜力テスト正答率の比較

項目	具体的な項目	正答率(%)		伸び率 (ポイント)
		事前	事後	
記譜力	リズム記譜	47	71	24
	旋律記譜	26	54	28
読譜力	リズム視聴判別	81	91	11
	旋律視聴判別	81	97	16
	初見演奏	6	28	22

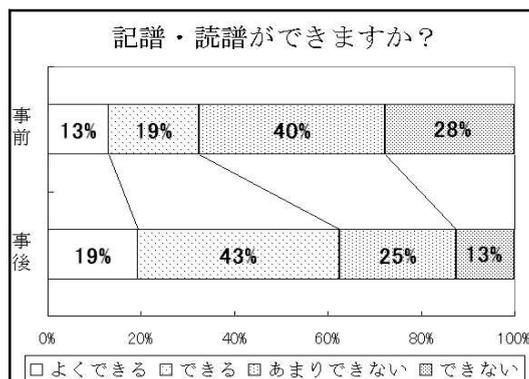


図8 記譜・読譜の自己評価

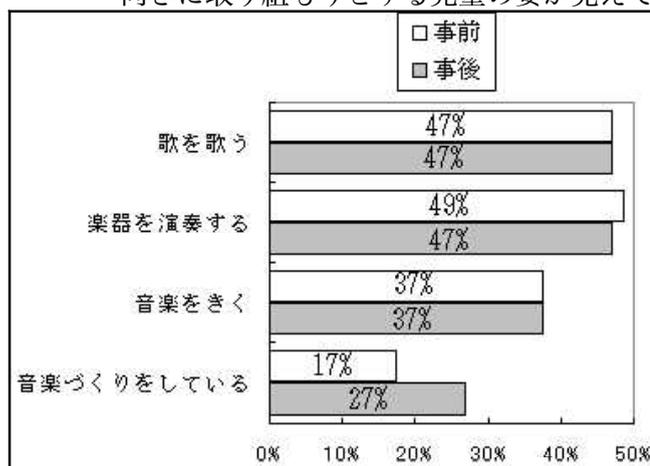


図9 音楽の授業で好きな活動は？

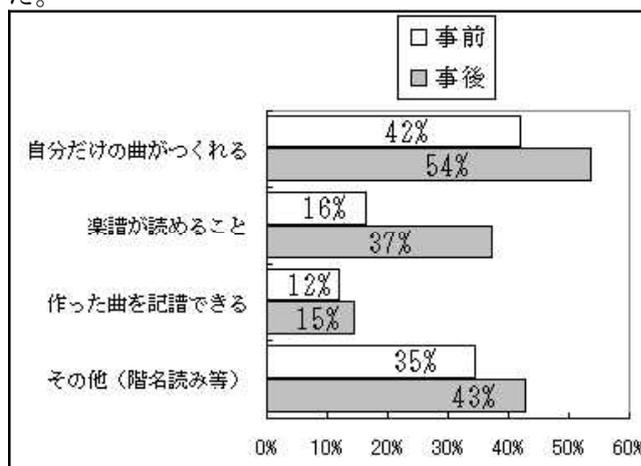


図10 音楽づくりで楽しいことは何ですか？

(2) 児童の作品からの検証

検証授業の第1時に即興的にリコーダーを使用して2/4拍子か3/4拍子、4小節の音楽づくりに取り組ませた。その後、フレーズカードを活用してリズムや音高の理解を深め、再度音楽づくりを行った。その際の事前、事後の児童の作品(図11)の大きな違いは曲想であるといえる。事前の旋律は、用いられた音符や休符が少なくリズムが単調である。また、構成音も3音から4音と少なく、旋律に対するイメージが伝わってこない。しかし、事後の作品は児童の思いや意図が感じられ、まとまった旋律として躍動感があり生き生きと歌えるメロディーになっている。

	事 前	事 後
A 児	 <p>みんななかよしよんのさん</p>	 <p>みんななかよしよんのさん</p>
B 児	 <p>みんななかよしよんのさん</p>	 <p>みんななかよしよんのさん</p>
作品の特徴	使用されている音符や構成音が少なく、旋律が単調で、キャッチフレーズに合わない曲想である。	使用されている音符や構成音が多様になり、旋律が生き生きとしてキャッチフレーズにふさわしい曲想となった。

図11 児童の作品

この二人の作品と同様、他の児童の作品においても、事前の旋律はワークシートの絵譜に階名をあてはめただけで、旋律に対するイメージが感じられない単調な作品が多かった。しかし、事後は付点音符やシンコペーションなどリズムや構成音が多様になり、音楽に対するイメージが感じられる作品が増えている。また、一度記譜して仕上げた音楽をリコーダーで繰り返し演奏し書き直すなど、試行錯誤しながら自分のイメージに合うような音楽づくりを行っている様子が見られた。

以上のことから、フレーズカードを活用した活動を通して、記譜力・読譜力が高まり、思いや意図を持った音楽づくりが行えるようになったと推察できる。

IV まとめと今後の課題

これまで「記譜力・読譜力をはぐくむ指導の工夫」をテーマに研究を進めてきた。以下に本研究における成果と課題をまとめる。

1 成果

- (1) フレーズカードを活用した音楽づくりに取り組むことで、児童は段階的に音符・休符、リズムや音高を理解し、記譜力・読譜力をはぐくむことができた。
- (2) 記譜力・読譜力をはぐくまれたことで、自分のイメージに合う音楽にするために試行錯誤し、思いや意図をもった音楽づくりが行えるようになった。
- (3) 音符、休符、拍子、音高などの理解を深める段階で、フレーズカードを活用して音遊びや身体表現活動などを行ったことで、児童が意欲を持って楽しみながら学習に取り組むことができた。

2 課題

- (1) 初めて見た楽譜を演奏できる「初見演奏」などについては、一定の成果がみられたものの正答率は低い結果となった。今後も年間を通して授業の中にフレーズカードを活用した記譜力・読譜力の指導を位置付け、継続して指導していくことが必要である。
- (2) 拍の流れを理解させるために、フレーズカードを活用しながら身体表現活動を行ったが拍子感の育成が不十分な面がみられた。拍の流れの感覚的理解が、記譜力につながるよう個別指導の工夫が必要である。
- (3) 全8時間という短い時間での検証であったため、4小節程度の音楽づくりにとどまった。さらに8小節、12小節と、まとまりのある音楽づくりが行えるよう継続して指導する必要がある。

これらの課題を受け、フレーズカードを活用した音楽づくりの実践を今後も深め、記譜力・読譜力をはぐくみながら、思いや意図を持って音楽づくりが行えるような児童の育成を目指していきたい。

〈主な参考文献〉

- 山口亮介 2008 『音楽鑑賞教育』 音楽鑑賞教育振興会
山本弘 2005 『ふしづくりで決まる音楽能力の基礎基本』 明治図書
山本文茂 1992 『SCNARE 第6巻 ふしをつくる』 音楽科実践講座刊行会